

第25回東京大学教育学部附属中等教育学校公開研究会のご案内（第2次）

東京大学教育学部附属中等教育学校

皆様におかれましてはますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。

さて、本校は2005年度から「協働学習」を通じての学校づくり、授業づくりに取り組み、探究につながる深い学びについての研究を進めて参りました。今年度は生徒が学ぶ姿に注目し、これからの学校教育の在り方についての研究会を開催いたします。

つきましては、多数の皆様にご参会いただき、ご指導ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染症等の動向によっては、皆さまおよび生徒・教職員を守るために直前でも変更のご連絡をすることがあります。予めご了承ください。

1 日時・場所

○日時：2023年11月18日（土）9:00～16:30（受付 8:35～）

○場所：東京大学教育学部附属中等教育学校

2 研究主題

「協働学習が拓く一人ひとりの探究的な学び～生徒が学ぶ姿から考える「探究」～」

3 参加費 1,500円（資料代として）

4 時程

8:35 ～	9:00 ～9:40		9:55 ～10:45		11:00 ～11:50	11:50 ～12:40	12:40 ～14:25		14:40 ～16:30
受付	開会 全体会1	移動	授業1	休憩	授業2	昼食 休憩	教科別 協議会	移動	全体会2 閉会

○開会・全体会1（9:00～9:40）

今年度の公開研究会のねらいおよび取り組みについての説明・報告をします。

○授業 1 (9:55～10:45)

教科	単元・題材	学年	授業者
国語①	<p>和本をつくる学び～「編集」「共有」「継承」を手がかりに古典の読書の意義を考える～</p> <p>概要：くずし字や和本に親しむ体験は魅力的であるが、実際に高校段階の古典の授業で実践するにはいくつか乗り越えるべき壁もある。新科目「古典探究」の現状を踏まえつつ、「編集」や「共有」のありかたや「継承」する意味を考えることが、読書に対する認識の変容や深い学びとつながるか、生徒達自身の言葉にも耳を傾けながら考えたい。</p>	5年	勝亦 あき子
社会①	<p>「東日本大震災」から考える防災</p> <p>概要：津波による甚大な被害を受けた宮城県女川町では、当時の中学生が震災の経験を後世に伝えるための様々な取り組みを行った。その過程に焦点をあてつつ、減災のあり方について生徒とともに検討したい。</p>	2年	武田 竜一
数学①	<p>関数</p> <p>概要：資料に基づいて人口推計を行う一方で、より良い推計のための条件を考える活動を行いながら人口を推計することを探究する。その活動を通して関数を見出す。特に中学1年生では扱わない合成関数などを含めて関数について多様に検討する。</p>	1年	今野 雅典
理科①	<p>気柱共鳴</p> <p>概要：音の振動数を求めるグループ実験を通して、音に波の性質があることを実感させたい。班の中で、様々議論しながら結果を求められることを期待している。</p>	5年	加藤 竜一
保健体育①	<p>働くことと健康</p> <p>概要：AIの発展など今後の働き方はますます多様化されていく中で、私たちは健康とどのように向き合っていくべきか。</p>	4年	宮内 貴圭
英語①	<p>プロソディに注目したレシテーション活動</p> <p>概要：レシテーション活動を通じて、英語の意味と音声の結びつきについて考える。特にスピーチに込められたメッセージを十分に表現するために音声面でどのような工夫ができるか、プロソディに注目しながら生徒とともに考える。</p>	1年	根子 雄一朗

○授業 2 (11:00～11:50)

教科	単元・題材	学年	授業者
国語②	<p>伝統的な言語文化の継承者を育てる～「義経記」を読む</p> <p>概要：古典文法の学習（自立語と助動詞）の定着を図り、伝統的な言語文化を鑑賞する力を育てることを目標に、「義経記」より義経と弁慶の出会いの場面を読む授業を行う。</p> <p>当日は、語り物の特徴を残す作品の魅力を効果的に表現するための朗読発表に向けて、班で協力して練習する予定である。授業での生徒の学びの様子を踏まえて生徒たちが楽しみながら学習する古文の授業のあり方について、参加者とともに考えたい。</p>	3年	江頭 双美子
社会②	<p>第1次世界大戦～民族と国家</p> <p>概要：第1次世界大戦をバルカン半島における民族と国家をテーマに、授業を構築する。授業は、生徒のグループ作業と全体での検討を通じて、当時の国家および国際社会の価値観や動向を探るよう試みる。現在の生徒の感性や価値観が本テーマに対峙できるよう努めたい。</p>	3年	橋本 渉
数学②	<p>数学Ⅰ データの分析 仮説の検定の考え方</p> <p>概要：新学習指導要領に導入された、数学Ⅰデータの分析の中の「仮説検定の考え方」を取り上げる。仮説検定とは、ある仮説を立て、それが成り立つかどうかを統計的に検証するものであるが、数学Ⅰでは「めったに起こらないこと」が起こった場合、仮説は成り立たないと判断するとある。このような形で導入された内容に、実践授業で生徒がどのように向き合っていくのかを取り上げることをねらいとするものである。</p>	4年	石橋 太加志
理科②	<p>電流と電圧</p> <p>概要：規格の異なる2つの豆電球を直列につないだ場合と並列につないだ場合で、電球の明暗が入れ替わることを、実験で確かめる。そして、回路を流れる電流や加わる電圧の測定を通して、豆電球の明暗が入れ替わる理由を生徒に探究させたい。</p>	2年	田邊 康夫
保健体育②	<p>自分のからだと向き合うマット運動</p> <p>概要：回転や巧技などの非日常的な運動を、からだをどのように動かせば上手にコントロールできるのか。第二発育急進期を迎え変化する自身のからだとの向き合いながら、マット運動における技能の習熟をはかる。</p>	1年	山本 奈緒子
生活デザイン (家庭)	<p>ルームシェア・シェアハウスから考える</p> <p>概要：グループで模擬的なルームシェアを紙面上で行う。間取りや動線をどう活用するかを考える。また、さまざまなトラブルにどう対処するのか、グループで合意形成を図りながら対応策を考えていく。最後に、家族や消費者・生活者の目線で生活を再認識し、どう住まうのか、どう生きるのかを考える。</p>	5年	丸山 智彰

英語②	A Legacy for Peace 概要：本単元で登場するガンディーが理不尽さへの抵抗手段として掲げた“non-violence”（非暴力）は、今も多くの動きのモットーとなっている。一見弱くも思える“non-violence”はなぜ選ばれるのか。“non-violence”が持つ強さはどこにあるのか。そもそもその言葉が何を指しているのかも含めて、今までに得た経験や知識を整理するとともに、現代で起こっている“non-violent”な動きに関する記事を複数読み、この問いについて考える。	3年	齋藤 景子
情報	通信プロトコル 概要：コンピュータ・ネットワーク上の異なる端末間での通信においては、共通の決まりが必要となる。授業では、データの送受信の手順ややり取りの方法をグループで話し合っ決めて。グループが二つに別れて、グループにおいて決定した方法にしたがって実際に通信を行う。このグループワークを通して通信プロトコルの重要性を学ぶ。	5年	長嶋 秀幸

○教科別協議会 (12:40～14:25)

教科	コメンテーター
国語	一柳 智紀 (教育学研究科〈教職開発コース〉准教授)
社会	小玉 重夫 (教育学研究科〈基礎教育学コース〉教授)
数学	小国 喜弘 (教育学研究科〈基礎教育学コース〉教授)
理科	藤江 康彦 (教育学研究科〈教職開発コース〉教授)
保健体育	山本 義春 (教育学研究科〈身体教育学コース〉教授)
生活デザイン	清河 幸子 (教育学研究科〈教育心理学コース〉准教授)
英語	浅井 幸子 (教育学研究科〈教職開発コース〉教授) 齋藤 兆史 (東京大学名誉教授)
情報・技術	吉田 壘 (工学系研究科〈国際工学教育推進機構〉准教授) 萩谷 昌巳 (東京大学名誉教授)

○全体会 2・閉会（14:40～16:30）

■テーマ「生徒の「探究」と教員がデザインする「探究的な学び」の授業」

■パネルディスカッション

藤江 康彦（教育学研究科教授）、清河 幸子（教育学研究科准教授）、本校生徒・教員
司会：小国 喜弘（教育学研究科教授）

5 参加申込

申し込み方法：本校 Web サイトよりお申し込みください。2023 年 10 月上旬に申し込みフォームをアップする予定です。なお、締切人数に達した教科はお申し込みできません。あらかじめ Web サイトで受付中であることをご確認の上、お申し込みください。

問い合わせ先

東京大学教育学部附属中等教育学校 研究部

〒164-8654 東京都中野区南台 1 丁目 15 番 1 号

E-mail：kenkyu@ss.p.u-tokyo.ac.jp